

第9回 標準委員会 研究炉専門部会議事録

1. 日時 2003年5月26日(月) 10:00~12:15

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 中澤(部会長), 中島(副部会長), 小林(久), 三田, 鈴木, 西村, 早川, 平山, 廣田, 松本, 宮坂
(11名)

(代理出席委員) 中島(小林(捷)代理) (1名)

(欠席委員) 西郷, 鶴田, 山内(3名)

(発言希望者) 伊藤, 佐藤(2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

RTC9-1 第8回 標準委員会 研究炉専門部会議事録(案)

RTC9-2 人事について

RTC9-3 標準委員会の活動概況

RTC9-4 分科会の活動状況

-5 「研究用原子炉の廃止措置に関する基本的考え方(案)」の決議投票結果について

RTC9-6 「同上」の決議投票時保留意見に対する研究炉専門部幹事会見解

RTC9-7 「同上」の公衆審査結果

RTC9-8 放射線遮蔽計算のための線量換算係数(案)

RTC9-9 標準委員会活動への貢献について

RTC9-10 新規標準案件アンケート結果〔集約表〕

RTC9-11 他部会における新規標準案件検討経緯

参考資料

RTC9-参考1 研究炉専門部活動方針(RTC3-5)

RTC9-参考2 クリアランスレベル検認分科会の設置について(FTC13-14)

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、代理委員を含め12名の委員が出席しており、定足数(10名以上)を満足している旨の報告があった。

(1) 前回議事録の確認

前回議事録(RTC9-1)について承認された。

(2) 人事について

事務局より、丹沢幹事が3月末をもって職務の都合により委員を退任した旨の報告があった。また、三田委員の任期が5月末で満了する旨の報告があった。部会長より、委員の退任に伴う対応について意見を求める旨の発言があった。三田委員より、本日出席の伊藤勝氏(東芝)の推薦があった。また、廣田委員より三田委員の再任の提案があった。両提案について、全員一致で両氏の委員選任及び再任を行った。

事務局より、RTC9-2に沿って放射線遮蔽分科会主査として平山委員再任の報告があり、これを承認した。

(3) 標準委員会の活動状況について

事務局より、公衆審査の状況、新分科会の立ち上げ状況などの報告を行った(RTC9-3)。

(4) 分科会報告

中島副部会長、平山委員より、RTC9-4に沿って分科会活動状況の概要報告を行った。以下のような審議が行われた。

- ・遮へい材としてのコンクリート関係の標準組成作成は難しい。この分野の専門家に分科会に加わってもらい、組成の取り方などどんなものを作れば意味のあるものとなるか実態把握をしながら検討している。
- ・Na漏洩でコンクリート中の水が問題となった。結晶水は温度が上がれば抜けていくので、これの含水率は初期のものと同経たものとは組成が変わってくる。
 - ・単にデータを提示するだけでは標準にはならない。
- ・コンクリート組成関係データは、実際に使用しており、ニーズは高いので標準にして欲しい。

(5) 研究炉廃止措置分科会作成標準原案の標準委員会決議投票結果とその対応

事務局より、標記決議結果と出された意見への対応の報告(RTC9-5, 9-6)を行った

(6) 研究炉廃止措置分科会作成標準原案の公衆審査結果

事務局より、RTC9-7に沿って公衆審査結果についての報告があった。以下のような審議が行われた。

- No. 1 の意見は、炉規法の「原子炉の全ての運転」の解釈について、“事業所単位”としていた従来の規制当局として考えを、規制緩和の観点から“原子炉個々の単位”で考えるとの解釈を出したことによるものである。
- この意見の解釈としては合理的で妥当な考えと思われるが、炉規法 6 1 条との関係はどうか？ また、共通施設についてはどうなるのか？ 今の炉規法には問題があり、法律を整備することなしに解釈で運用していくのは如何なものか。
- 法人統合の要請からも炉規法の見直しは望まれることであるが、国として炉規法に手を付ける考えは無い模様である。法的に条項に書いてないことは禁止との考えがある。共通施設については従来通り“事業所単位”で見ることになると思われる。
- No. 2 の意見は、「一つの法律で規制されたものは、その法律の中でクローズする、法律上の相互乗り入れはできない」という法律上の考え方に依るもの。

(7) 放射線遮蔽分科会作成標準案の報告

- 平山委員より、RTC9-8(1)及び(2)に沿って標準案についての報告があった。以下のような審議が行われた。
- 今回標準としての対象は、実用的で利用価値が多いものとして光子、中性子とした。電子、陽子などについては、事故や宇宙の環境でのニーズはあろうが、今後の検討課題とした。
 - 標準データをCD-ROM化して提供する考えは？
 - 利用の仕方を考えると、このような電子情報としての提供は今後当然考えていくべきことである。
 - この分野では新しい言葉が出されることにより混乱が見られている。データとしての標準に併せて、解説としても価値あるものとして行きたい。
 - データの標準化に際して、今後、データ所有者の了解を得ることなど著作権に係わるのがかなり大変になる。

この案の形で「次回委員会（6月6日予定）に中間報告を行う。」ことを決定した。また、委員会で大きなコメントが無い場合には、引き続き部会の決議投票に入ることを決定した。本案へのコメントについては学会事務局に連絡する。

(8) 標準委員会活動への貢献について

事務局より、RTC9-9に沿って標準委員会活動への各委員の貢献についての説明があり、特に貢献の点で問題となる点は無いかを確認した。

(9) 今後の標準案件について

- 事務局より、RTC9-10、-11に沿って、先に実施した今後の新規標準案件アンケート結果、及び他部会におけるこれらの検討・策定経緯についての説明があった。以下のような審議が行われた。
- 最初の活動方針では、加速器分野も重要と考えたが、具体的な案件は出て来なかった。
 - 加速器分野は困っていると聞いているが、その実態が分からない。廃止措置がらみでそのベースとなるものは必要と思われる。
 - サイクル部会のクリアランス検認分科会で行うのは、原子力安全委員会のベースに基づくもので、具体的な核種は分かっている。検認方法についてその考え方を整理し、測定技術を定めるものである。
 - 研究炉の場合、発電炉の場合と共通の問題もあろうが、対象とする核種数が多く、従って検認方法も変わって来る。研究炉のテーマとしてやる意味はある。
 - 委員会で共通課題として交通整理ができないか。
 - 標準案件についてまずニーズの高いところから取り組むということを出発点にしている。調整については、具体的に取り組んである程度の整理ができてからの話になる。
 - クリアランスについては、RANDECのテーマにも入っており、臨界実験装置～R1施設まで幅広く考えている。事前準備が必要であり、これが無いとWGでは大変である。
 - 安全運転に係わる課題もあると思うので、原研とサイクル機構とで少し議論して要望を出してもらえれば良い。
 - 遮蔽分科会の中からは、線量換算係数以外にもガンマ線ビルドアップ係数やスカイシャイン線量などの標準案件が挙がってきている。
 - 現在の活動方針の中で、先のアンケートで、遮蔽分科会で挙げられている案件をシャッフルして、絞り込み・整理を行うべき。

以上のような議論を経て、活動方針を見直し新たな標準案件を整理するための以下のメンバーより成るタスクを設置することが決定した。（敬称略）

中島，小林（久），鈴木，平山，西村

6. 次回開催予定

第10回専門部会は、次々回の標準委員会が9月頃開催の見通しであることから、その前の時期を念頭に後日決定することとした。

以上